

## ABSTRACT

A portable type cordless telephone includes a casing having an ear receiver, a microphone, and a transmitting/receiving portion and an operating portion. The casing includes a receiver side casing 1, a microphone side casing 2 and an electronic insulative casing 4 which is provided between the receiver side casing 1 and the microphone side casing 2. The receiver side casing 1 has a conductivity and serves as one element of a dipole antenna. The microphone side casing 2 has a conductivity and serves as the other of the dipole antenna. The microphone side casing 2 and the receiver side casing 1 are connected to a power supply contact 5 of the antenna.

12 A

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案公報 (Y 2)

(11)実用新案出願公告番号

実公平6-31798

(24) (44)公告日 平成6年(1994)8月22日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/02	C	9077-5K		
H 0 4 B 7/26	V	7304-5K		

(全 2 頁)

(21)出願番号	実願昭62-127802	(71)出願人	999999999 松下電器産業株式会社 大阪府門真市大字門真1006番地
(22)出願日	昭和62年(1987)8月22日	(72)考案者	春木 宏志 神奈川県横浜市港北区綱島東4丁目3番1 号 松下通信工業株式会社内
(65)公開番号	実開平1-33248	(74)復代理人	弁理士 武田 元敏
(43)公開日	平成1年(1989)3月1日		
		審査官	水谷 好男

(54)【考案の名称】 携帯型コードレス電話器

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】受話器、送話器、送受信器、プッシュボタン等が筐体に装備されている携帯型コードレス電話器において、

前記筐体は、ダイポールアンテナの一方の素子として機能する導電性の受話器側筐体と、前記ダイポールアンテナの他方の素子として機能する導電性の送話器側筐体と、前記受話器側筐体と前記送話器側筐体との間に介装されて、それ等を電氣的に絶縁する絶縁筐体とからなり、

前記受話器側筐体と前記送話器側筐体とは、アンテナ給電点に接続される

ことを特徴とする携帯型コードレス電話器。

【考案の詳細な説明】

(産業上の利用分野)

2

本考案は、受話器、送話器、送受信器、プッシュボタン等を筐体に装着した携帯型コードレス電話器に関するものである。

(従来の技術)

従来、携帯型コードレス電話器用のアンテナとしては、筐体に外装するホイップアンテナや、筐体に内装するフェライトアンテナ、ループアンテナ等がある。

(考案が解決しようとする問題点)

ところで、ホイップアンテナは、アンテナ利得が高いという特長がある反面、アンテナが筐体から突出する構成になっているため、電話器が使用し難く、且つ、アンテナや電話器を破損し易いという問題があった。

又、フェライトアンテナ、ループアンテナ等は、電話器に内蔵されているため、電話器が使用し易く、且つ、アンテナや電話器が破損し難いという特長がある反面、十

BEST AVAILABLE COPY

分なアンテナ実効長が得られないため、アンテナ利得が低いという問題があった。

本考案は、このような問題に鑑みてなされたもので、アンテナや電話器が破損し難く、且つ、アンテナ利得が高いアンテナを具備した携帯型コードレス電話器を提供することを目的としている。

(問題点を解決するための手段)

本考案は、携帯型コードレス電話器の筐体を、ダイポールアンテナの一方の素子として機能する導電性の受話器側筐体と、ダイポールアンテナの他方の素子として機能する導電性の送信器側筐体と、送信器側筐体と受信器側筐体との間に介装して、それ等を電氣的に絶縁する絶縁筐体とで構成し、受話器側筐体と送信器側筐体とをアンテナ給電点に接続したものである。

(作用)

携帯型コードレス電話器の筐体自体をダイポールアンテナとすることにより、アンテナが筐体から突出しなくなって、アンテナや電話器が破損し難くなると共に、筐体に内装するアンテナに比較してアンテナ実効面積が大きくなるので、アンテナ利得が高くなる。

(実施例)

図は本考案の一実施例の構成を示すもので、1は受話器(図示しない)等を内装した受話器側筐体、2は送話器(図示しない)等を内装し、且つ、操作部3等を外装した送話器側筐体で、この送話器側筐体2の握り部分2aの長さは受話器側筐体1の握り部分1aの長さより長く形成されている。4は受話器側筐体1と送話器側筐体2との間に介装して、それ等を電氣的に絶縁する絶縁筐体、5は受話器側筐体1と送話器側筐体2とを電氣的に\*

\*励振するアンテナ給電点で、このアンテナ給電点5は実際には受話器側筐体1 或いは送話器側筐体2 に内装されている。

このように構成された本実施例において、アンテナ給電点5から受話器側筐体1及び送話器側筐体2に高周波電流を流せば、受話器側筐体1と送話器側筐体2とは、携帯型コードレス電話器の筐体を最大限に利用した効率の高いダイポールアンテナとして機能する。

尚、手で触れる部分よりも給電点5が上に位置するように、絶縁筐体4の設置位置を筐体全体の真中から受話器側にずらして設けることにより、手の握り位置の影響によるアンテナ特性の劣化を軽減することができる。

又、本実施例では、送話器側筐体2の握り部分2aの長さを受話器側筐体1の握り部分1aの長さよりも長くした例で説明したが、逆に、受話器側筐体1の握り部分1aの長さを送話器側筐体2の握り部分2aの長さよりも長くしてもよい。

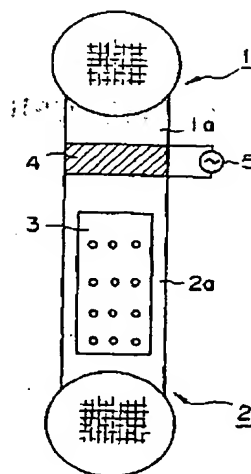
(考案の効果)

以上説明したように、本考案によれば、携帯型コードレス電話器の筐体自体がダイポールアンテナとなっているので、アンテナが筐体から突出しなくなって、電話器の取扱いが簡単になると共に、アンテナや電話器が破損し難くなるという効果がある。又、筐体に内装するアンテナに比較してアンテナ実効面積が大きくなるので、アンテナ利得が高くなるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

図は本考案の一実施例の構成図である。

1……受話器側筐体、2……送話器側筐体、4……絶縁筐体、5……アンテナ給電点。



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**